

自分の周りを知る

富山国際大学附属高等学校 2年 古川 優香

幸せとはなんだろうか。お金に満ち足りた生活、誰かに命を奪われる心配のない日々、自分の財産を他人に奪われない安心感。衣食住が安全に保障され、自らの思想を他者に強制されない自由。幸せの形は、人それぞれ無数に存在する。私が考える、世界の幸せのために私たちができることは、「お互いの言語や文化、思想を尊重してみよう」という一歩だ。「してみよう」と考えるのは、相手の気持ちを尊重し、未来を担う私たち一人ひとりの自発的な行動を促したいからだ。

この考えに至ったのは、南アフリカにルーツを持つ友人との出会いと、私自身の経験からだ。彼女は高校入学時から、祖国の子どもたちを助けることを夢みていた。今回、実際に S A P E S I という現地の団体と交渉し、生徒会と協力して本の回収ボランティアを実行する彼女の行動力や愛国心に、私は深く心を動かされた。私も彼女のように何か行動したいと考えた。まず始めようと考えたのは、自分の国、日本を知ることだった。転勤や旅行が好きだった私は、これまで多くの土地を訪れた。しかし、初めて触れる文化や、地元の人から話を聞いたときに、まだまだ知らないことばかりだと気づかされる。そして、そうした地域には後継者不足や外国人との交流における課題、歴史や環境に関する様々な問題がある。日本の素敵なところを知ることが、海外の人に魅力を伝えることにつながる。魅力を伝えることができるのなら、海外の人が日本文化を知り、尊重することにつながる。そして、日本の問題を深く知ることは、自分の考えをもち、解決に向けた一歩を踏み出すことにつながる。

以前、京都で出会ったカナダ人男性は私にこう語った。「私は日本人の妻を持っており、日本の文化や問題に触れる機会が多い。だから、自分のルーツの国ではないが、妻の国だから愛し、問題に危機感を持つことができる。なんでも関係ないと思わず、まずは自分のお国を知り、考えることが大切だ」。この言葉は、私の考えをより確固たるものにした。何が問題で、どんな理由があるのか。お互いの立場を尊重するための成長のきっかけは、そこにある。世界の幸せのためには、まず日本の幸せを考えることが大切であり、そのためには、私たちが自分の国をもっと知るべきだと感じている。

私はまた、公共や地理の授業で、考え方の違いが国際問題に発展しやすいことを学んだ。最近では京都などの観光地で、ゴミのポイ捨てや私有地への侵入など、日本の文化を尊重しない人たちによる被害が後を絶たない。身近な迷惑行為が、やがて命を奪う事件や紛争に発展するケースも世界には存在する。私の県は以前宗教的認識の違いから、地域内の争いが国際問題にまで発展した事例がある。宗教は互いを尊敬することが最も難しい分野かもしれない。しかし伝統文化や社会のルールは比較的尊重しやすい。私は国内旅行や海外研修に参加する際に、必ず事前にその土地の習慣やルールを調べる。そのおかげで、現地の人々から感謝されることも多い。この気づきを周囲に広めることで、互いを尊重し合う輪はさらに広がるはずだ。

世界の幸せのために、いきなり大きなプロジェクトを立ち上げる必要はない。まずは自分の地域、県、そして国を知ることから始める。その中で見つけた問題を解決するための手伝いをする。そうした一つひとつの行動が、いつか大きな愛国心つながり、お互いを尊重できる心を持つことができ、世界のどこかを助ける力になるかもしれない。

これらの行動こそが、最終的に世界と、そして私たち自身の幸せにつながる一歩だと信じている。私はこれからも、この経験や考えを胸に、自分にできることを段階的に実行していきたい。